

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

資料2-1

匝瑳市地域公共交通計画の評価等結果（令和6年4月～令和7年3月）

	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1	市内循環バス利用者数：41,756人/年（令和9年度）	乗り方教室の開催と市ホームページや公共交通ニュースへ利用案内を掲載し、利用促進を図った。	バス事業者の有する乗降データを用いて算出	・34,155人（令和6年度） ・平和・共興循環と須賀・栄循環が減少した。	各種割引制度や主要施設を中心とした時刻表の周知を図る。 乗り方教室の開催と市ホームページや公共交通ニュース等を通じて、利用促進を図る。	
2	デマンド型交通1日平均利用者数：26.4人（令和9年度）	市ホームページや広報紙への掲載、公共交通マップの配布の他に公共交通ニュースに前年度実績値や利用されている方の意見を掲載し、周知を図った。	運行実績データを用いて算出	・19.07人/日（令和6年度） ・前年度より大幅に増えた。	利用者登録をされていて、一度も利用していない方向けに利用案内を送付する。 引き続き周知を行い、新規の登録者と利用者を増やす。	
3	地域交通利用料助成事業利用者数：821人/年（令和元年度）⇒979人/年（令和9年度）	市ホームページや広報紙、公共交通マップの配布を通じて周知を図った。	地域交通利用券を用いて算出	・852人（令和6年度） ・前年度より利用者が18人減少、利用率が0.3%減少した。	今までの周知方法に加えて、公共交通ニュースでも事業紹介を行い、周知を図る。	
4	公共交通サービス全般の利用者満足度：36.6%（令和2年8月）⇒39.2%（令和9年度）	市内公共交通全般の案内を掲載した公共交通ニュースを配布した。	市民アンケート調査	—	最新の運行情報を差し込んだ公共交通マップを配布することで、利用者の利便性向上へつなげる。	令和9年度に予定
5	市内循環バス利用者満足度：74.1%（令和2年8月）⇒79.3%（令和9年度）	近隣高校への電車通学の時刻に合わせた1便の利用案内と公共交通マップの配布を通じて周知を図った。	市内循環バス利用者アンケートの実施	・72.0%（令和6年度） ・各循環により85%～62%と幅がある。	令和9年度の達成に向けて、公共交通マップの配布の他に、乗り方教室のイベントを通じて、利用促進を図る。	令和6年度及び令和9年度に予定
6	八日市場駅1日平均乗車人員：1,762人/日（令和元年度）⇒1,674人/日（令和9年度）	令和6年5月12日から5月25日まで駅からハイキングを実施した。	鉄道事業者の有するデータを用いて算出	・1,490人（令和6年度）	鉄道の利用を促進する企画切符等の周知や、駅からハイキングの開催を検討する。	
7	高速バス（銚子東京線）年間乗降者数：16,548人/年（令和9年度）	市ホームページや公共交通マップの配布を通じて周知を図った。	バス事業者の有する乗降データを用いて算出	・16,696人（令和6年度） ・目標値を上回っている。	市ホームページや広報紙、公共交通マップの配布を通じて、利用の周知を図る。	

	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
8	路線バス（多古本線）年間乗降者数：102,485人/年（令和9年度）	市ホームページや公共交通マップの配布を通じて周知を図った。 高校生にバスの時刻表や定期券等の情報を記載したチラシを配布した。	バス事業者の有する乗降データを用いて算出	・116,032人（令和6年度） ・減便したものの目標値を上回っている。	市ホームページや広報紙、公共交通マップの配布を通じて最新運行情報の周知を図る。 沿線の高校の新入生向けにチラシを配布する。	令和6年6月17日減便
9	交通結節点整備箇所数：－ ⇒4箇所（令和9年度）	再編により市内循環バスの乗り継ぎを考慮したダイヤ作成を行い、乗り継ぎ強化を図った。	－	－	市ホームページや広報紙、公共交通マップの配布を通じて、最新の運行情報の案内や各公共交通の周知を行う。	令和9年度に予定
10	運行情報案内に関する利用者満足度：41.8%（令和2年8月） ⇒44.7%（令和9年度）	公共交通マップと公共交通ニュースに公共交通全般の運行案内を掲載し、配布した。	市民アンケート調査	－	公共交通マップ等を通じて、周知していく。	令和9年度に予定
11	商業施設などとの連携による利用促進活動の導入件数：－⇒1件以上（令和9年度）	商工観光課と調整し、「おでかけモデルプラン」を作成した。	－	－	商業施設との連携について検討する。 「おでかけモデルプラン」の周知と新たなプランを検討する。	令和9年度に予定
12	乗り方教室参加者数：－ ⇒延150人以上（令和9年度）	イベント会場への移動手段も兼ねて、教室を開催した。	受付にて参加者数を把握	・18人（令和5年度） ・13人（令和6年度） ・延べ31人	市内循環バスの乗り方教室の開催に向けて、バス事業者と調整する。	
13	市内循環バス収支率：10.6%（令和元年度） ⇒12.0%（令和9年度）	利便増進実施計画に基づき再編した市内循環バスの周知を行った。	バス事業者の有するデータ及び令和6年度一般会計決算から算出	・運賃収入額558万円÷（運行経費8,590万円－国庫補助金1,888万円）＝8.3%（令和6年度） ・前年度と同じ割合	乗り方教室をイベント会場で開催し、目標達成を目指す。 窓口や広報媒体の他に、乗り方教室を通じて、市内循環バスの利用促進を図る。	
14	公共交通への公的資金投入額：8,057万円（令和元年度） ⇒8,057万円以内（令和9年度）	利便増進実施計画に基づき再編した市内循環バスとデマンド型交通の周知を行った。	バス事業者の有するデータ及び令和6年度一般会計決算から算出	・市内循環バス6,143万円＋地域交通利用料助成事業974万円＋デマンド型交通運行事業1,834万円＋生活交通路線維持事業154万円＝9,105万円（令和6年度） ・人件費・燃料費等の高騰による委託費の増額、公共交通維持経費の増額	公共交通の利用促進により、公的資金投入額の削減を目指す。 事業の見直しを検討する。	